

福童町遺跡 8

—福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第 240 集

2008

小郡市教育委員会

本文目次

I. 調査の経緯と経過	1
(1) 調査の経緯	
(2) 調査の組織	
(3) 調査の経過	
II. 位置と環境	2
(1) 地理的環境	
(2) 歴史的環境	
III. 福童町遺跡8の遺構と遺物	4
IV. 調査成果のまとめ	10

挿図目次

第1図 小都市の地形図	2
第2図 調査区周辺遺跡分布図 (S=1/25000)	3
第3図 調査区位置図 (S=1/2500)	3
第4図 落とし穴状遺構	4
第5図 1号溝状遺構	5
第6図 出土遺物	7
第7図 福童町遺跡8 遺構配置図 (S=1/250)	8・9

図版目次

図版1	福童町遺跡8 調査区全景 (直上から、写真上方が北)
図版2	①調査区全景 (東上方から) ②本調査区と福童町遺跡3の位置関係 (南西上空から)
図版3	①落とし穴状遺構土層断面 (南から) ②溝状遺構土層断面 (1) (東から) ③溝状遺構土層断面 (2) (西から)
図版4	①溝状遺構遺物出土状況 (1) (北から) ②溝状遺構遺物出土状況 (2) (北東から) ③溝状遺構完掘状況 (上空から)
図版5	出土遺物 (1)
図版6	出土遺物 (2)

I. 調査の経緯と経過

(1) 調査の経緯

本遺跡の所在する小郡市福童字町 329-7 他は、小郡市役所都市建設部まちづくり推進課が主幹となる「市道小郡西福童 3081号線道路改良事業」の対象地となっている。この事業に関連して、平成17年度に福童町遺跡3（事前審査番号 05018、小郡市文化財調査報告書第 225集）の発掘調査を実施している。福童町遺跡8については平成18年10月30日に「埋蔵文化財の有無に関する照会」文書が提出され、福童町遺跡3の隣接地であり、試掘結果（事前審査番号06078）からも遺跡の連続が確実であったことから、小郡市教育委員会では開発に先立っては協議が必要であるとの回答を行なった。協議の結果、小郡市教育委員会がまちづくり推進課より予算の執行委任を受け、平成19年度事業として発掘調査を実施し、同年度に調査報告書を刊行することで同意を得た。

(2) 調査の組織

調査に関わった組織と担当者は下記のとおりである。

<小郡市役所都市建設部>

部長 組坂弘幸（～H19.3.31）
高木良郎（H19.4.1～）
まちづくり推進課長 高木英治
施設・公園係長 弥永健俊
内村隆之（～H19.7.1）
川野哲司（H19.7.1～）

<小郡市教育委員会>

教育長 清武 輝
部長 高木良郎（～H19.3.31）
池田清己（H19.4.1～）
文化財課長 田竈千代太
係長 片岡宏二（～H19.3.31）
重松正喜（H19.4.1～）
技師 上田 恵

<調査参加者> 伊東みさ子 小川高征 田中賢二 林勢津子 森下弥寿治 山田和子

（以上小郡市在住、五十音順）

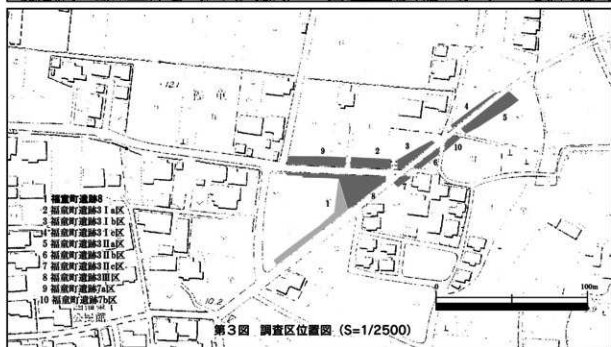
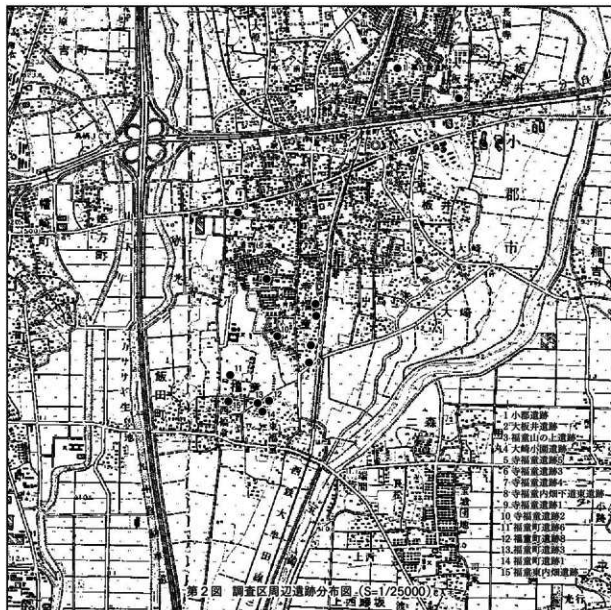
(3) 調査の経過

発掘調査は平成19年4月から5月にかけて実施した。調査区はいずれもG.L.1.0～1.5mまでの近年の耕作土を重機で掘り下げ、その後人力で遺構の検出・掘削を行なった。以下に調査日誌より調査の経過の概略を記す。

平成19年4月18日機材搬入、調査区表土の重機掘削 19日人力による遺構検出・掘削開始、落とし穴状遺構・焼土坑各1基、溝状遺構1条、ピット群を検出 27日溝状遺構を除く調査区内の遺構掘削完了 5月11日溝状遺構掘削完了 14日調査区清掃 15日全景写真撮影 21～23日遺構配置図・個別遺構図作成 24～25日重機による埋め戻し 25日機材撤収 28日現場引き渡し



写真1 調査風景（1号溝状遺構掘削中）



III. 福童町遺跡8の遺構と遺物

調査区は、既調査区である福童町遺跡3に西接する、約530㎡の区画である。東側の一部は上記遺跡の調査区と重複する。調査区内は標高10.7～11.5mを測る。東寄りの三角形の区画はほぼ平坦な地形で、そこから西へ延びる帯状の区画で緩やかに傾斜して下降する。遺構掘り込み面は褐色ローム層（基盤層）で、上面には黒ボク土の堆積を確認している。この層に遺物は含まれず、また、標高の低い西側へ向かって徐々に堆積が厚くなる。

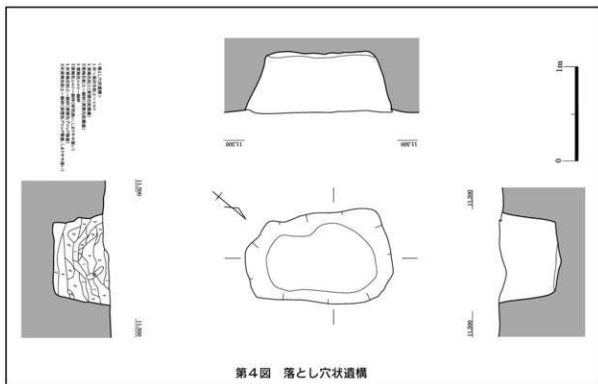
福童町遺跡8においては、落とし穴状遺構1基、溝状遺構1条、ピット群を検出している。遺物は溝状遺構を中心に出土しており、他ピット群にも細片が散見される。調査区中央～北東にかけては、樹木抜痕が多量に残り、遺跡を破壊している。ピットの多くは不整形で浅く、調査区内で掘立柱建物の存在を示唆するものは確認できなかった。また、東接する福童町遺跡3で検出されたピット群とともに建物を構成すると考えられる掘り込みも認められなかった。多くは後世の植樹痕と考えられる。なお、本遺跡で検出した溝状遺構は、福童町遺跡3で検出されたものと同一の遺構が連続するものである。



写真2 福童町遺跡周辺

落とし穴状遺構（第4図、図版3-①）

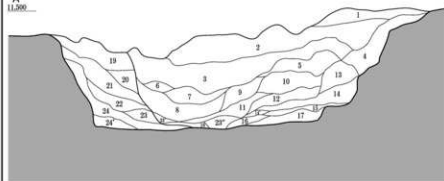
調査区南西で検出した。長軸1.5m、短軸0.95m、深さ0.6mを測り、不整形円形を呈する。主軸方向は北西—南東である。埋土は黒灰色シルトと灰黄褐色粘土、地山崩落に由来する黄褐色粘土が互層



第4図 落とし穴状遺構

<調査区内壁断面>

A
11,500



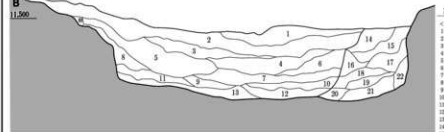
A
11,500

- ①調査区内壁断面①
- 1 黄褐色(1:0.1)～細砂(1:0.2)中(中量)①
 - 2 暗褐色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 3 暗褐色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 4 黄・黄褐色粘土(硬固地(粘質土))
 - 5 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 6 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 7 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 8 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 9 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 10 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 11 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 12 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 13 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 14 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 15 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 16 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 17 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 18 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 19 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 20 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 21 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 22 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 23 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土
 - 24 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色粘質土



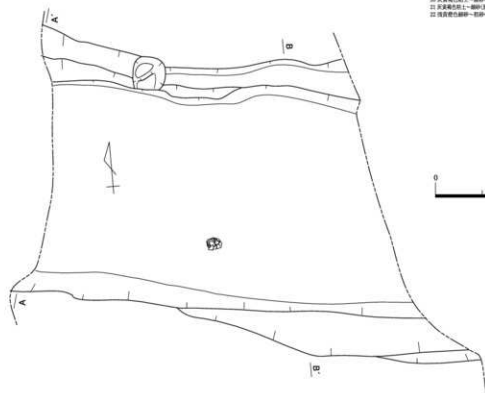
<調査区東寄へ4m断面>

B
11,500



B
11,500

- ①調査区東寄へ4m断面①
- 1 黄褐色(1:0.1)～細砂(1:0.2)中(中量)
 - 2 暗褐色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 3 暗褐色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 4 黄褐色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 5 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 6 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 7 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 8 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 9 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 10 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 11 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 12 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 13 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 14 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 15 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 16 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 17 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 18 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 19 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 20 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 21 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土
 - 22 灰白色(1:0.1)～細砂(1:0.2)暗褐色・黄褐色(1:0.1)粘質土



第5図 1号溝状遺構

となっており、自然埋没の様相を示す。土器片が出土しているが、微細なため時期等は不明、図示は控えた。遺構底面及び壁面において、杭等の打ち込み痕は確認できない。出土遺物から時期の特定はできないが、本遺跡と連続する福童町遺跡3や隣接する福童町遺跡においても同様の落とし穴状遺構が確認されていることから、同一段丘上に展開する一連の狩猟用施設と考えられる。

1号溝状遺構（第5図、図版3・4）

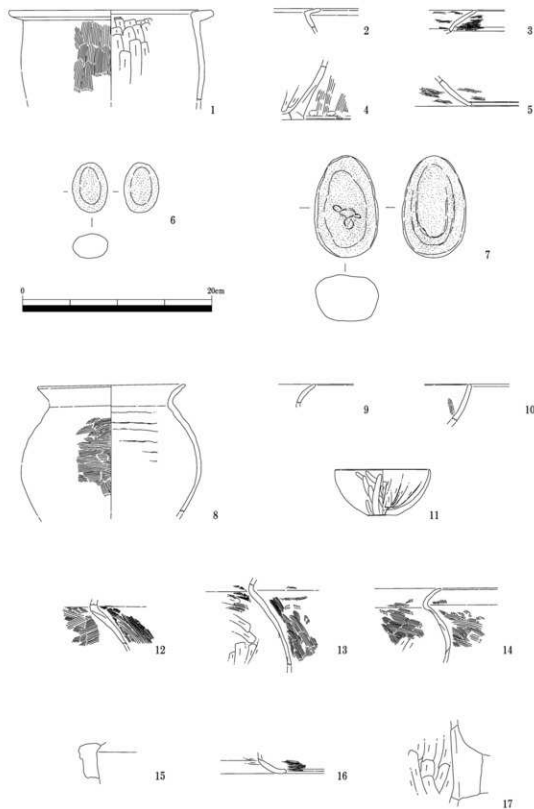
調査区北端を東西に流れる。埋土の状況から2時期に渡ることを確認している。旧溝状遺構は残存幅1.3m、深さ1.0mを測り、断面は台形を呈する。埋土は灰黄褐色シルトを主体とし、自然埋没の様相を呈する。埋土上層を中心に土師器片が出土している。新溝状遺構は幅3.4m、深さ1.2mを測り、断面は台形を呈する。北岸にテラス状の平坦面が見られる。埋土は灰黄褐色シルトを主体としており、上・中層からは土師器片が、下層からは弥生土器片が出土している。土師器は第5図に掲載した「調査区西壁断面」の14層及び「調査区東寄ベルト断面」の19層、弥生土器は「調査区東寄ベルト断面」の7-9層を中心に出土している。遺物は埋土全体にわたって出土したが、下層していくに従って出土数が減少する傾向にあった。図示した調査区東寄ベルト断面では埋没状況が看取できるのみであるが、西壁断面では北寄りの中・下層の堆積状況から、部分的に複数回の掘り直しを行っていると考えられる。なお、この遺構は福童町遺跡3において検出されている溝状遺構が西に連続するもので、第5図に「調査区東寄ベルト断面」として掲載した土層断面図のうち、1-13層については同遺跡の調査時に「西壁断面」として測図されたものを使用し、14-20層については本遺跡の調査時に旧溝状遺構として確認した埋土の堆積状況を加筆して作成していることをここにお断りしておく。

出土遺物（第6図、図版5・6）

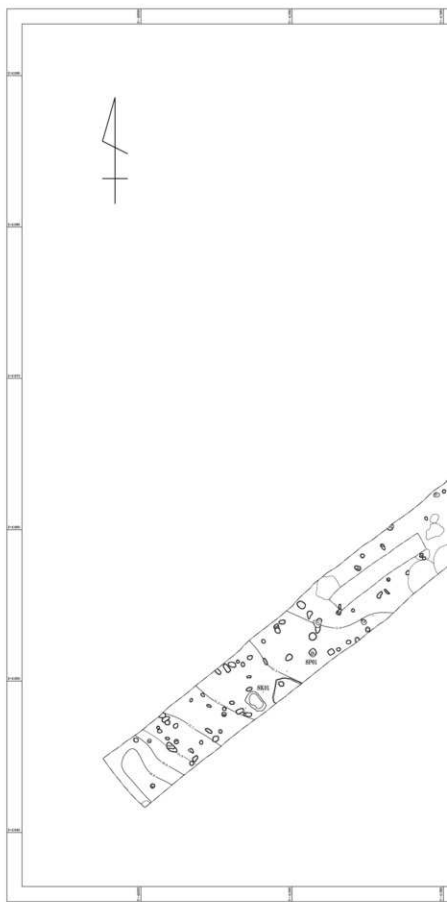
1は弥生時代中期末の甕。内面は下から上へのヘラケズリ、外面はタテハケを施す。浅黄橙色で胎土はやや肌理細かく、少量の石英・長石を含む。7-9層から出土。2は弥生時代中期末の甕の口縁部。端部外面にヨコナデ調整の痕跡が残るのみで、その他の調整は摩滅のため不明。浅黄橙色で胎土はやや粗く、比較的大粒の石英・長石を含む。南寄りの旧溝状遺構埋土からの出土。3は弥生時代後期末の高杯の口縁部。内外面に密なヨコミガキを施す。赤橙～橙色を呈し、胎土はやや肌理細かい。7-9層からの出土。4は弥生時代中期後葉の甕の底部。内面は指ナデ調整、外面はタテハケを施す。内外面は灰白色、断面及び底部外面は黒灰色を呈し、焼成は甘い。5は弥生時代中期後葉の高杯脚部片。内外面にヨコミガキを施す。表面の摩滅が激しいが、赤色顔料を塗布していた可能性が高い。浅黄橙色で胎土は肌理細かい。南寄りの旧溝状遺構埋土からの出土。8は古墳時代中期後葉の土師器甕。内面は粗い指ナデを施しているが、幅2cm前後の粘土帯を積上げた痕跡が明瞭に確認できる。外面はヨコハケで一部黒斑が見られる。浅黄橙色で胎土は比較的肌理細かい。第5図に掲載した平面図上の遺物で、14層からの出土。9は古墳時代中期後葉の土師器甕の口縁部片。浅黄橙色で胎土は粗い。14層から8の甕と混在して出土。10は古墳時代中期末の杯片。橙色で胎土はやや粗い。14層から8の甕と混在して出土。11は土師器の杯。外面は指ナデのみの調整、内面に放射状にヘラケズリを施す。浅黄橙色を呈し、胎土は肌理細かい。14層からの出土。12は土師器の甕。内面にヨコハケ、外面にタテハケを施す。内外面とも灰白色を呈し、胎土はやや粗い。13は土師器の甕。内面は頸部のみヨコハケ痕跡を残してケズリ調整、外面はタテハケを施す。灰黄褐色を呈し、胎土は比較的肌理細かい。14は土師器の甕。内面は口縁部でナデ、体部でヘラケズリを施すが、前段のハケが明瞭に残る。外面はナナメハケ。赤褐色～浅黄橙色を呈し、胎土はやや粗い。

その他の出土遺物（第6図、図版5・6）

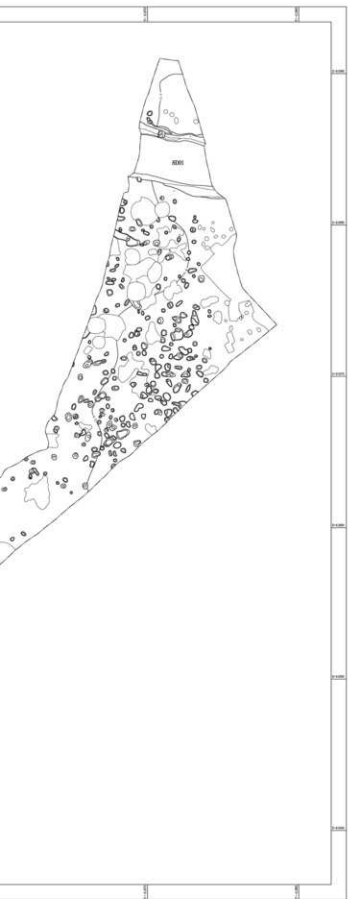
前述の遺構から以外にも若干の遺物が出土しているためここに挙げる。6は多孔質安山岩の投彈。7は多孔質安山岩の叩き石。両者はSP01からの出土。15は土師器の高杯片。赤褐色で胎土は比較的肌理細かい。摩滅により調整は不明。16は土師器高杯の脚部片。外面ヨコミガキ、内面ケズリ調整。赤褐色で胎土は精良。17は土師器の甕で橙色、胎土は精良。いずれも表土内からの出土。



第6図 出土遺物



第7図 福童町遺跡8



遺構配置図(S=1/250)

IV. 調査成果のまとめ

本遺跡の所在する西福童区においては、本書で報告した遺跡も併せて計9箇所で開催調査が実施されている。ここでは、本遺跡で検出した遺構の状況とこれまでの調査成果を総合し、この地区の歴史的様相を概観したい。

西福童区内の調査において現在確認されている最古の出土遺物は、福童町遺跡4（市報告書226）SD08出土の縄文時代後期の土器片であり、人間活動はこの段階から開始したと想定はできるが、それを証明する遺構は未確認のため推測にとどまる。弥生時代に入ると、福童町遺跡4 SD10に伴って弥生時代前期末の土器が出土しており、人間活動が開始したことが明確となる。

本遺跡において検出したSD01の埋土からも、弥生時代中期の所産である土器類が出土している。但しこの溝状遺構については、後述するように新・旧両段階とも古墳時代に機能した溝であると考えられる。また、それ以外に同時期と判断できる遺構・遺物は確認されていない。そのため現状の出土資料からは、この時期の集落の存在は可能性が述べられるに過ぎない。なお、時期は不明であるが落とし穴状遺構1基が検出されており、狩猟場という生産域として土地利用がなされていた可能性もある。

古墳時代に入ると、福童町遺跡1（市報告書203）において集落域が形成されることが確認されている。ここでは古墳時代前期の竪穴住居群及び溝状遺構、中～後期の竪穴住居群が検出されており、継続した集落経営が実施されていたことが明らかになっている。特に前期の集落は大枠を環濠（SD01）で、集落内部を小溝（SD02）で、2段階の区画をもって成立していたようである。この集落は西側への延長が福童町遺跡3（市報告書225）の調査によって確認されている。

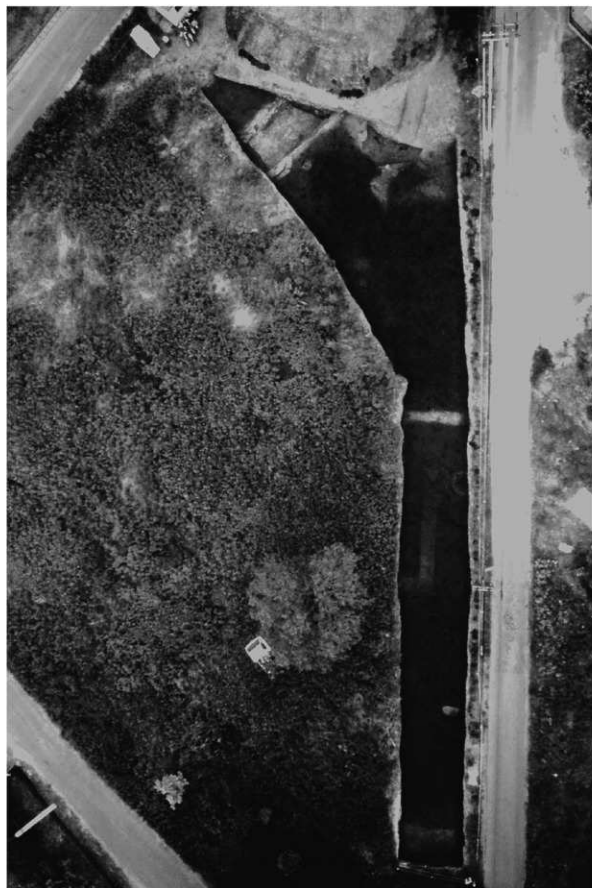
本遺跡においてはこの時期の遺構としてSD01を検出している。SD01は新段階において、埋土中層に弥生土器が一定のまとまりをもって出土する層位があるものの、埋土全体から出土する遺物は土師器を主体としている。また旧段階の埋土上層からは、原型を保った土師器甕（第6図・8）が出土していることから、新・旧両段階の溝状遺構ともに実際に機能していたのは古墳時代前期～中期末と考えられ、位置関係も踏まえて、福童町遺跡1で検出された環濠が連続したものと考えられる。また本遺跡の調査区内から竪穴住居は検出されていないことから、この溝状遺構が集落域の北・西の境界を示すものであると判断できる。またこの竪穴住居群は北・東へも広がりを見せておらず（市報告書237）、集落の中心は現在の宅地部分に展開していたようである。

古代から中世にかけての遺構・遺物は、本遺跡の北北西（市道・下町西福童16号線沿線）に集中している。福童町遺跡2（市報告書207）・4で奈良時代の遺物を伴う溝状遺構、福童町遺跡6（市報告書226）で平安時代の遺物を伴う溝状遺構、福童町4・6で鎌倉時代の遺物を伴う溝状遺構がそれぞれ検出されているほか、国道500号線に北面する福童山の上遺跡（市報告書75・100・114・170）においては溝状遺構とともに柵列・掘立柱建物・井戸状遺構が検出され、集落の存在を示している。

本遺跡においてもこれらの時期の遺構・遺物は確認されておらず、集落域が現在の西福童区集落から北へと移行した可能性を示唆している。但し、市道・下町西福童16号線沿線の遺跡で検出された遺構群は、集落の中心ではなく境界を構成すると想定されるものが多いことから、集落域そのものは未調査の水田・宅地部分に存在すると考えられる。

近世に入ってもこの傾向は続き、福童東内畑遺跡（市報告書226）に代表されるように、中世の遺構・遺物が出土する遺跡に近世の遺構・遺物が混在する状況が確認されている。一方古墳時代の集落が形成された本遺跡の周辺は、福童町遺跡3の溝状遺構以外には中・近世の遺構が極めて希薄であり、生産域としての土地利用がなされた可能性が高い。事実、西福童・東福童両区は田畑の比率の高い地域であったことが文献資料からも判明している。

今回報告した調査もそうだが、近年の発掘調査は極めて狭い面積を対象としており、そこから得られる個別の情報も断片的なものである。今回ここで述べた歴史的様相についても、周辺遺跡の状況を踏まえた推測の多いものではあるが、今後周辺地域の調査の進展により、さらに詳細な集落範囲の確定、構成要素の抽出、そしてその時代変遷といった歴史復原が可能になることを期待したい。



播磨町遺跡B 調査区全観（直上から、写真上方が北）



①調査区全景（東上方から）



②本調査区と福童町遺跡3の位置関係（南西上空から）



①落とし穴状遺構土層断面
(南から)



②溝状遺構土層断面 (1)
(東から)



③溝状遺構土層断面 (2)
(西から)



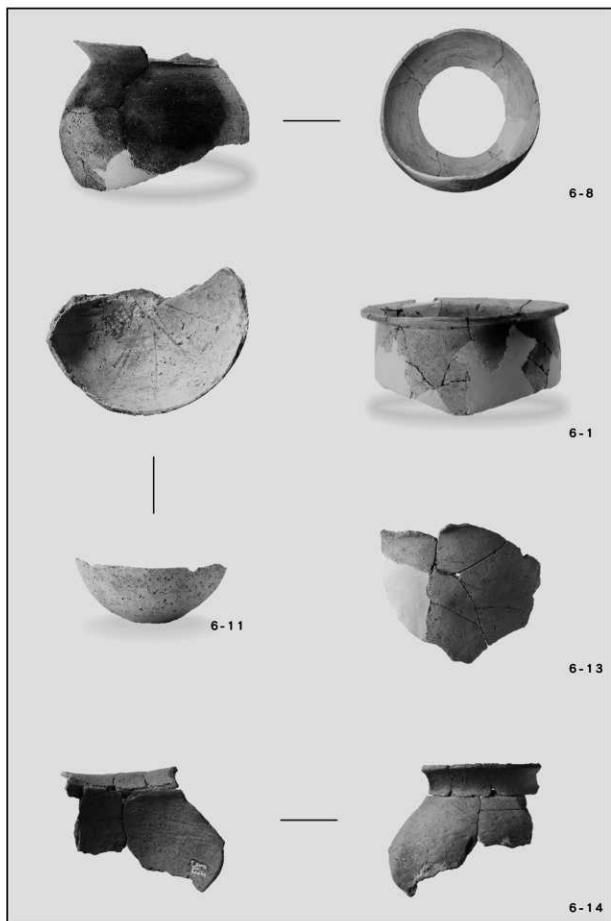
①溝状遺構遺物出土状況(1)
(北から)



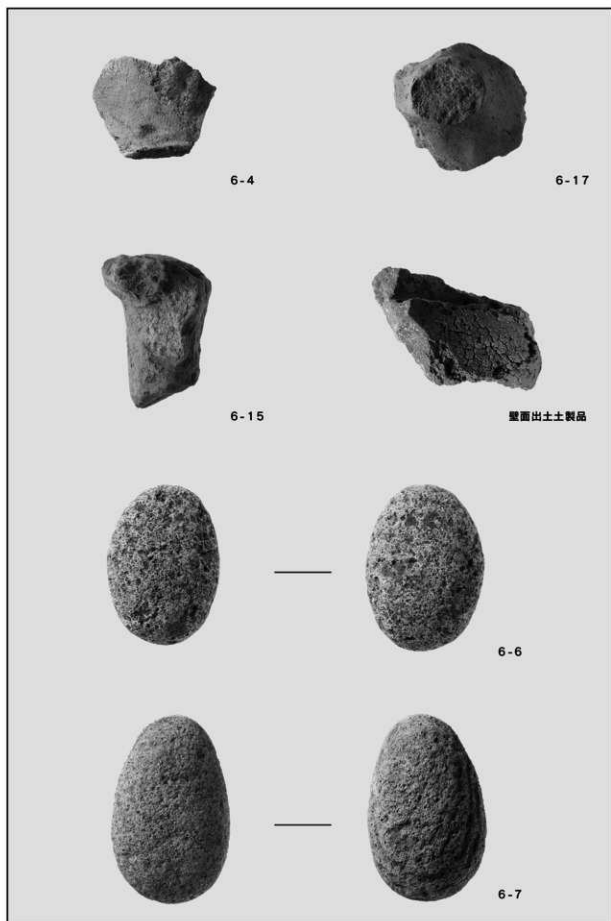
②溝状遺構遺物出土状況(2)
(北東から)



③溝状遺構完掘状況
(上空から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	ふくどうまちいせき							
書名	福童町遺跡8							
副書名	福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第240集							
編著者名	上田 恵							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 Tel. 0942-72-2111							
発行年月日	2008(平成20)年3月31日							
保管場所	[写真・図面・遺物] 小郡市埋蔵文化財調査センター							
保管場所所在地	〒838-0106 福岡県小郡市三沢5147-3 Tel. 0942-75-7555							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
福童町遺跡8	小郡市福童	40216		33° 22' 40"	130° 32' 56"	20080416 ～ 2008	528 m ²	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
福童町遺跡8	集落	古墳	落とし穴状遺構 溝状遺構	弥生土器・石器 土師器				

福童町遺跡 8

—福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告—
小郡市文化財調査報告書第 240 集

編集 小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡 225-1

発行 信光社印刷有限公司
福岡県朝倉市一木 32-1

